

# 平成31年3月期 決算について

令和元年 5月17日  
JFE鋼板株式会社

平成31年3月期の連結業績(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(百万円未満切捨て)

## 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		経常利益	特別損益	当期純利益
	百万円	%	百万円	百万円	百万円
31年3月期	65,648	6.9	597	△ 16	362
30年3月期	61,395	9.3	1	△ 19	△ 114

注 連結子会社数 31年3月期 5社、30年3月期 5社  
持分法適用関連会社数 31年3月期 1社、30年3月期 1社

(百万円未満切捨て)

## (参考)個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		経常利益	特別損益	当期純利益
	百万円	%	百万円	百万円	百万円
31年3月期	56,788	5.6	300	△ 7	235
30年3月期	53,786	8.9	△ 247	△ 18	△ 220

## 【当期の概況】

当社の主要な販売先である国内薄板建材の需要について、住宅は前期比+2.0%(新設住宅着工戸数[持家])、非住宅は前期比▲4.3%(非住宅着工床面積)で推移しましたが、復旧需要などに支えられ、堅調な需要環境が継続しました。

## 【当期の損益】

当期において、当社はカラー鋼板の拡販を行うとともに、原材料価格の上昇に対応した製品価格の適正化を継続的に行いました。また、前期に頻発した設備トラブルの抑制に努め、操業の安定化・歩留向上を実現しました。

その結果、連結経営成績は、売上高65,648百万円(前期比+4,253百万円)、経常利益597百万円(前期比+596百万円)、当期純利益362百万円(前期比+476百万円)となり、増収増益を達成しました。

## 【次期の見通し】

今後の薄板建材需要について、住宅分野は減少傾向にあるものの、非住宅分野では、老朽化物件の改修による潜在需要が顕在化してくると見込まれます。一方、コスト面では、原板価格の上昇、亜鉛・アルミ価格の高止まり、さらには塗料・物流費の上昇など、当社を取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況が続くと予想されます。

このような環境下で下記の改革を実行し、安定的な黒字体質の実現を目指します。

### ①組織と働き方の見直し

全社的に組織の簡素化を図り、業務の見直し、人材の効率的な配置を進めてまいります。

### ②建材部門の強化

建材分野に係る機能を集約し、関係会社を含め、一貫した戦略の策定と実現を図ります。

### ③製造コスト削減・デリバリーの安定化

ラインの最適運用により、さらなる操業度・歩留向上を図ります。同時に品質安定化・デリバリー強化策を講じてまいります。

以上